

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成23年8月11日 (2011.8.11)

【公表番号】特表2010-533200(P2010-533200A)

【公表日】平成22年10月21日 (2010.10.21)

【年通号数】公開・登録公報2010-042

【出願番号】特願2010-516239(P2010-516239)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

C 1 2 N 5/0783 (2010.01)

C 1 2 Q 1/06 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

A 0 1 K 67/027 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

C 0 7 K 14/52 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00

C 1 2 N 5/00 2 0 2 L

C 1 2 Q 1/06

C 1 2 N 5/00 1 0 2

A 0 1 K 67/027

C 1 2 N 15/00 A

A 6 1 P 43/00 1 0 5

A 6 1 P 37/04

A 6 1 P 35/00

C 0 7 K 14/52 Z N A

【手続補正書】

【提出日】平成23年6月23日 (2011.6.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

細胞内において Ca^{2+} 媒介性サイトカイン発現を抑制し且つ該細胞内においてストア作動性 Ca^{2+} 流入の大幅な減少を引き起こさないインビトロでの方法であって、

前記細胞を、前記細胞内において Ca^{2+} 媒介性サイトカイン発現を抑制するのに効果的な量の選択的 Stim2 インヒビターに接触させる工程を備えることを特徴とする方法。

【請求項 2】

前記細胞が、リンパ球であることを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

前記細胞が、T 細胞であることを特徴とする請求項 2 記載の方法。

【請求項 4】

前記 T 細胞が、制御性 T 細胞であることを特徴とする請求項 3 記載の方法。

【請求項 5】

前記選択的 $Stim2$ インヒビターが、 $Stim1$ と比較して $Stim2$ を選択的に抑制することを特徴とする請求項 1 乃至 4 いずれかに記載の方法。

【請求項 6】

細胞内において Ca^{2+} 媒介性サイトカイン発現を抑制し且つ該細胞内においてストア作動性 Ca^{2+} 流入の大幅な減少を引き起こすインビトロでの方法であって、

前記細胞を、細胞内において Ca^{2+} 媒介性サイトカイン発現を抑制し且つ前記細胞内においてストア作動性 Ca^{2+} 流入の大幅な減少を引き起こすのに効果的な量の選択的 $Stim1$ インヒビターに接触させる工程を備えることを特徴とする方法。

【請求項 7】

前記細胞が、リンパ球であることを特徴とする請求項 6 記載の方法。

【請求項 8】

前記細胞が、T 細胞であることを特徴とする請求項 7 記載の方法。

【請求項 9】

前記 T 細胞が、制御性 T 細胞であることを特徴とする請求項 8 記載の方法。

【請求項 10】

前記選択的 $Stim1$ インヒビターが、 $Stim2$ と比較して $Stim1$ を選択的に抑制することを特徴とする請求項 6 乃至 9 いずれかに記載の方法。

【請求項 11】

細胞内において Ca^{2+} 媒介性サイトカイン発現を抑制し且つ該細胞内においてストア作動性 Ca^{2+} 流入の大幅な減少を引き起こさない検査薬を同定する方法であって、

a. 少なくとも 1 つの検査薬を、 $STIM2$ タンパク質又はその機能性フラグメントをコードする異種核酸を含む組換え細胞に接触させる工程を備え、

前記異種 $STIM2$ タンパク質又はその機能性フラグメントが、ヒト $STIM2$ タンパク質と少なくとも 80% が同一であるアミノ酸配列を有し、

前記方法はさらに、

b. 前記細胞内において Ca^{2+} 媒介性サイトカイン発現を測定する工程と、

c. 細胞膜を介するイオン流動もしくは電流又は膜電位の変化を測定する工程か、

前記細胞からの蛍光信号の変化を検出する工程か、

前記細胞からの発光信号の変化を検出する工程か、

前記細胞の膜電位の変化を測定する工程のいずれかとを備えることを特徴とする方法。

。

【請求項 12】

前記細胞が、T 細胞であることを特徴とする請求項 11 記載の方法。

【請求項 13】

被験者内の腫瘍に対する免疫反応を増大させる検査薬を同定する方法であって、

(a) 少なくとも 1 つの検査薬を、 $STIM1$ タンパク質又はその機能性フラグメント、及び $STIM2$ タンパク質又はその機能性フラグメントをコードする異種核酸を含む組換え細胞に接触させる工程を備え、

前記異種 $STIM1$ タンパク質又はその機能性フラグメントが、ヒト $STIM1$ タンパク質と少なくとも 80% が同一であるアミノ酸配列を有し、

前記異種 $STIM2$ タンパク質又はその機能性フラグメントが、ヒト $STIM2$ タンパク質と少なくとも 80% が同一であるアミノ酸配列を有し、

細胞膜を介するイオン流動もしくは電流又は膜電位の変化を測定する工程か、

前記細胞からの蛍光信号の変化を検出する工程か、

前記細胞からの発光信号の変化を検出する工程か、

前記細胞の膜電位の変化を測定する工程のいずれかとを備え、

前記方法はさらに、

(b) 前記検査薬を前記異種 $STIM1$ タンパク質の単離形態に接触させ、前記検査薬の

前記単離異種 S T I M 1 タンパク質への結合性を測定する工程と、

(c) 前記検査薬を前記異種 S T I M 2 タンパク質の単離形態に接触させ、前記検査薬の前記単離異種 S T I M 2 タンパク質への結合性を測定する工程とを備えることを特徴とする方法。

【請求項 1 4】

前記細胞が、T 細胞であることを特徴とする請求項 1 3 記載の方法。

【請求項 1 5】

S t i m 2 インヒビターをさらに備えることを特徴とする請求項 6 に記載の方法。

【請求項 1 6】

細胞内において $C a^{2+}$ 媒介性サイトカイン発現を抑制し且つ該細胞内においてストア作動性 $C a^{2+}$ 流入の大幅な減少を引き起こさない選択的 S t i m 2 インヒビターの使用。

【請求項 1 7】

前記細胞がリンパ球であることを特徴とする請求項 1 6 に記載の使用。

【請求項 1 8】

前記細胞が T 細胞であることを特徴とする請求項 1 7 に記載の使用。

【請求項 1 9】

前記 T 細胞が制御性 T 細胞であることを特徴とする請求項 1 8 に記載の使用。

【請求項 2 0】

前記選択的 S t i m 2 インヒビターが、S t i m 1 と比較して S t i m 2 を選択的に抑制することを特徴とする請求項 1 6 乃至 1 9 のいずれかに記載の使用。

【請求項 2 1】

細胞内において $C a^{2+}$ 媒介性サイトカイン発現を抑制し且つ該細胞内においてストア作動性 $C a^{2+}$ 流入の大幅な減少を引き起こさない選択的 S t i m 1 インヒビターの使用。

【請求項 2 2】

前記細胞がリンパ球であることを特徴とする請求項 2 1 に記載の使用。

【請求項 2 3】

前記細胞が T 細胞であることを特徴とする請求項 2 2 に記載の使用。

【請求項 2 4】

前記 T 細胞が制御性 T 細胞であることを特徴とする請求項 2 3 に記載の使用。

【請求項 2 5】

前記選択的 S t i m 1 インヒビターが、S t i m 2 と比較して S t i m 1 を選択的に抑制することを特徴とする請求項 2 1 乃至 2 4 のいずれかに記載の使用。

【請求項 2 6】

S t i m 2 インヒビターをさらに備えることを特徴とする請求項 2 1 に記載の使用。